

(様式 1)

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三吾嬬小学校
校長名	川中子登志雄

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
○ 全体として全国平均とほぼ同等～やや高めである。	● 5・6年理科は課題が大きい（5年生において標準スコアが47台と要注意）。
○ 標準スコアで見ると、平均50前後で推移し、極端な弱点は少ない。	● 2・3・5年、算数の図形領域は正答率が50%台と低い。
○ 現6年生は、5年時に全国平均を大きく上回っている（標準スコア54.7などピーク年もあり）、6年も高水準を維持。	● 4・5・6年生の社会・理科は全国平均よりやや低めの傾向が続いている。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
○ 「学校で学んだことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の肯定率は90%を超えている。	● 「テストでまちがえた問題は、あとでやり直しをしていますか」の設問において、A層ほど取り組む割合が高いが、D層においては半分の児童が取り組めていない。
○ 「グループで話し合う授業は楽しいですか？」の肯定率は85%を超え、全ての層で高い数値が出ている。	● 学校以外の勉強時間の設問において、まったくしないと答えたC、D層が1割いる。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
○ 全国学力学習状況調査では、国語、算数、理科の3教科とも全国平均正答率を上回った。	● 全国学力学習状況調査では、内容の6観点のうち3観点で全国平均正答率を下回っている。
○ 理科の4領域中3領域で平均正答率が東京都の平均正答率を上回っている。記述式においては6ポイント以上高い。	● 国語においては、思考・判断・表現で全国平均正答率を下回った。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 主体的な学びを基盤とした学習時間・家庭学習改革

- 校内研究「児童の主体性の育成」を土台に、教科と学習PBL（総合的な学習）の両輪で、児童が自ら課題を発見・解決する学びを推進する。
- タブレット端末を文房具の一つとして日常的に活用し、思考の可視化や協働的な学びを日常化

する。

- 「自学のすすめ」リーフレットを活用と発達段階に応じた「学び方」の指導を徹底し、児童が家庭でも自己課題の設定と振り返りを継続的に実施できるよう支援する。

(2) データに基づく指導改善と個別最適化の徹底

- 学力状況調査や日々の評価とともに、単元時間ごとに「ふりかえりシート」等を活用したチェックを行い、学年・教科ごとの課題やつまづきを特定し、改善策を迅速に学習時間へ反映する。
- Web 支援システムや「ふりかえりシート」「ミライシード」などの ICT 教材を活用し、児童一人ひとりの課題や習熟度に応じた個別・反復学習を充実させる。
- 学習支援指導員や SST を低・中・高学年別に重点配置し、D 層・E 層の児童には個別支援や担任・支援員との連携を徹底する。

(3) 校内外のリソース活用と組織的な学力向上マネジメント

- 「学力向上委員会」を中心に、校内の教職員で課題分析と指導方法の共有を定期的に行い、全体で効果的な支援策を展開する。
- Teams などの ICT を活用し、学力向上のための実践例や教材、外部からの有用な情報を全教職員へタイムリーに共有する。
- 必要に応じて校外リソース（すみだ教育研究所等）からの教材を活用し、学校全体で多角的に児童の学習をサポートする。
- D 層児童を対象にした「放課後すみだ塾」では、各学年の学力向上委員を中心に適切な学習課題を選定して学習に取り組ませることで、基礎的基本的事項を定着させるとともに、担任と SST が連携して学習意欲の向上を図る。

3 「令和 8 年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・ 全ての教科を標準スコア 50.0 以上にする。
- ・ 観点別正答率での目標値を全教科で上回る。

- 児童の主体性をさらに高めるため、「児童が主体となる学びへの授業改革」の取組を一層深化させる。今年度は、日々の学習活動で児童が自ら課題を発見・解決する経験を積み重ねるとともに、OPP シートによる自己評価、ICT やふりかえりシート等を活用したセルフチェックの仕組みを全教科で徹底し、児童が自分の成長や課題に主体的に向き合える学習スタイルの定着を図る。
- 令和 7 年度は、標準スコア 50.0 未満の教科が全体で 8 教科となり、依然として 4 年と 6 年で複数教科が基準未達の状況が続いた。特に 5・6 年生の理科については、ふりかえり期間に重点的な補充学習を行い、**全学年・全教科で標準スコア 50.0 以上の達成を目指す**。また、意識調査では低学年ほど「自己肯定感」や「社会性」に関する項目の課題も引き続き認識しているため、**主体性育成と社会性向上に資する学級・学年活動を強化し、子供たちが自信をもって人と関わる力を育てる**。